

2007/5/10
伊藤 元重

ご議論頂きたい論点

【航空の自由化について】

- 1．成田や羽田という混雑空港を抱えていることが、いわゆるオープンスカイ政策を採ることの妨げにはならないのではないか。
- 2．相互に航空の自由化をすれば、相手国との航空権益は平等に確保できると考えられるが、それでもなお航空協定の「カードとして残す」意義はあるのか。
- 3．成田や羽田への乗り入れを制限したままで、自由化を要求することは、各国の反発を招くのか。すぐに乗入できる関西や中部との交流の拡大を望む国も多いのではないか。

【日本の目指すべき方向】

- 4．航空の自由化が進む中で、航空交渉が目指すところの「国益」をどのように考えていくべきか。
「二国間で航空権益を交換する外交交渉」という発想を超えて、地域経済の活性化や消費者の利便性向上などを目的とした航空の自由化を目指すべきではないか。
- 5．容量に余裕のある関西・中部については、便数、事業者、路線、空港の制限を撤廃した方が、ネットワークもスピーディに構築できるのではないか。便数の上限により、結果的に成田への集中を加速させているのではないか。

【羽田の国際化・24時間化】

- 6．羽田（成田）の国際枠について、自由化を進める観点から、日本とのオープンスカイ協定に積極的な国・地域に優先配分するといった戦略的な使い方ができないか。
- 7．羽田は、24時間利用が可能であり、深夜早朝をフル活用する施策を講ずるべきではないか。国際線について、フル活用を促進するためには、どのようなことが必要か。